

夏休みの自由研究で「自学自習ノート」を始めてみてはいかがでしょうか

校長 菊原 寛之

◎「自学自習ノート」って何をすればいいのか？

「自学自習ノート」は子どもが自分から率先して学習できる子に育つ自主学习ノートです。

国語、算数、理科、社会、英語などの教科や好きなテーマを家庭で学習する自主学习ノートです。

① 勉強ではなくてもいい

子どもが「やりたい！」と思えることならば、いわゆる教科学習に関するものでなくても構いません。

例えば、ポケモン・ゲーム・YouTubeなど、子どもの好きなテーマなら何でも取り組ませてください。

② 間違ってもいい

「自学自習ノート」は「採点」ではなく、「まるつけ」です。正解・不正解をチェックするのではなく、子どもが「頑張ったところ」を見つけて花丸や大きな○を付けてください。できれば、「色の塗り方がキレイ！」などとコメントを書いてあげてください。

「自学自習ノート」には、このような特徴があるので、子どもたちは学習するのが楽しくなり、自分から「もっとやりたい！」と主体的に取り組むようになり、親子関係もよくなるなど、変化が表れてくるようになります。

教育に関する様々な情報が簡単に入手できるようになりました。情報過多により「うちの子は遅れているのではないか」などの不安になり、焦ってしまうことも多いのではないのでしょうか。その不安や焦り、危機感が子どもに直接伝わることもあります。子どもが欲する前に「与える」ことで強制的になり、「楽しむ」感覚が欠落してしまうことが子育ての盲点であると考えられます。このことが原因で、親子の信頼関係が損なわれてしまい、勉強嫌いや学習習慣の定着ができていないことにつながるケースが多いのです。

まずは、日々の家庭での取り組みに「知的な活動」があるかを見直し、「自学自習ノート」を取り入れていただけると幸いです。

◎「自学自習ノート」のメリット

1. 学習習慣が身に付いてくる

親子で一緒に遊び感覚で「自学自習ノート」に向かうことで、子どもは「勉強は親子で一緒にやる楽しいこと」というイメージを持ちます。自分から「一緒に、自学自習ノートやろう！」と言うようになり、習慣化されていきます。

2. できれば、毎日、最初は年齢×1分から

大切なことは、子どもが楽しみつつ、集中して「自学自習ノート」に向かうことです。もし、子どもが「もっと！」と言っても「また明日ね」と切り上げてください。これが、子どもに学習習慣を付けつつ、勉強嫌いにさせないポイントです。慣れてきたら、時間を増やしますが、「一気に長時間」ではなく、「少しずつ継続的に」を心がけてください。

3. 一生ものの自己肯定感を育む

良い所を見つけたら、花まるやコメントを書いて褒めてあげてください。子どもはそれを何度も読み返し、嬉しさを思い出し、自己肯定感を高めていきます。

4. 主体的に考える習慣

学校や塾の宿題、ドリルは反復練習が中心です。「自学自習ノート」は何を書いても自由です。そして、書いた内容を「どうやって書いたの?」「これをみてどう思った?」などと親子で会話し、一緒に考えます。これを繰り返すと、日常生活の中でも自然に「これってなんだろう?」と主体的に考える習慣がついてきます。

5. 親子の信頼関係の構築

「自学自習ノート」は親子のコミュニケーションツールでもあります。忙しい毎日の中で、親子の時間を確保することはなかなか難しいことです。「自学自習ノート」を通してたっぷり会話することで、信頼し合える関係性を築くことができます。

◎「自学自習ノート」に必要なもの

・用意するもの

1. 方眼ノート

縦横自由に使えて、図形もかける方眼ノート（5ミリ方眼を推奨）

縦・横を自由に区切ったり、図形を描いたりする場合もフリーハンドで描けて便利です。

書く文字の大きさが安定していない子にとっては、方眼の枠があるとそれが目安になり、文字が整ってきます。定規でなくても真っすぐな線を引いたり、同じサイズの形をいくつも描いたりすることができます。日々のちょっとした面倒臭いが解消され、継続につながります。

2. 花まるやコメントが目立つための赤サインペン

太いペンの花まるは迫力があります。褒めているという事実を可視化して、子どもに「嬉しい！楽しい！」と感じてもらうためにも花まるも褒めコメントも、大迫力で思い切り書いてあげてください。

◎「自学自習ノート」へのとりかかり

※最初は1日1ページ、年齢×1分を目安にしてください。

3つのコツ

1. 子どもの好きなテーマを探す

子どもの興味・関心を観察して、好きなテーマを探してください。ポケモン、プリキュア、ドラえもんなど、子どもが好きなアニメやゲーム、スポーツなど、たくさんの「好きなもの」を見付けましょう。

2. 好きなテーマから問題を作る

最初は親が問題を作り、「自学自習ノート」1~2ページ分ずつで問題を出します。問題の内容は何でも構いません。ポケモンが好きならば、登場するモンスターを貼ったり描いたりして、名前を書かせるでもいいですね。好きなテーマにまつわるものでしたら、何でも問題にしていきましょう。

3. 花まるを付けて「よくできたね」と親が楽しむ

子どもが問題を解いたら、赤ペンで丸付けをしてください。採点ではなく、「良い所探し」をすることです。子どもは親のコメントを読んでさらにやる気になります。そして、多くても1日2ページまでに抑えることで「明日もまたやりたい！」という気持ちが育ってきます。

子どもを勉強嫌いにする5つの言葉

- ① 何やってるの！
- ② 勉強しなさい！
- ③ 真面目にやりなさい！
- ④ キレイに書きなさい！
- ⑤ 苦手な問題をやりなさい！

なかなか勉強しないわが子にいらいらすることはあります。やっと始めたと思ってもまじめにやらずに怒ってしまうと、つい上記の言葉が口から出てしまいそうになりますが、そこをぐっとこらえて見てください。

子どもは子どもなりに、頑張っていると捉えてみてください。親から見れば真剣に見えなくても、子どもなりに目の前のことに一生懸命取り組んでいるのです。にもかかわらずこのような言葉で叱つ

てしまった場合は、子どものやる気を著しく削いでしまいかねません。

子どもの頑張りを認め、やる気を促すような言葉を選んで対応してみてください。

※子どもがやる気になる褒め言葉

- ・素晴らしい・よく頑張っています・すごいぞ！○○ちゃん・継続は力なり・流石（さすが）
- ・どんどん賢くなっているよ・かっこいいね・いい感じ・その調子で・頑張り屋さんだね
- ・粘り強いね・間違い＝成長・天才！・丁寧にできています・じっくり取り組めました
- ・バッチリ！・最高です！・思考のあとが見えます・文章がうまくなっているね
- ・レベルアップしています・完璧！・えらい！・うまくなっています・自分で考えられています